

(1)施設基本情報シート

1.台帳番号	4580	3.利用用途別分類	スポーツ施設							
2.施設名	野島川河川プール(管理棟)	4.利用圏域別分類	地区							
5.所在地(町名・番地)	内海4102-3	15.設置根拠法令								
6.バス停	野島公民館前(300m)	16.設置条例								
7.開設年月日	平成10年3月27日	17.市の計画	現状のまま当面は存続する							
8.施設運営形態(指定管理者)	直営	18. 外観								
9.指定管理期間										
10.用途地域	その他		19. 内部							
11.財産区分	公共用									
12.施設概要 (設置の経緯や背景、施設の特徴や必要性など)	H7年に地元から「自然を活かした河川プールの設置要望」がありH10年に整備。自然河川利用のプールは市内でも珍しく地元住民のふれあいの場となっている。開設期間は例年1ヶ月(7月中旬～8月下旬)で、直近3ヶ年の利用者数はH28:2,500人、H29:2,307人、H30:2,148人で地区外からの利用者も多い。施設は管理人室、男女トイレ(更衣室兼用)、シャワー2基と最小限度の機能に留めている。施設設置場所の標高6.9m(標識あり)									
13.主な利用者	野島・内海地区内児童等	20.避難所の指定(標高)	— 6.90 m							
14.利用者駐車可能台数	3台	21.投票所の指定	無							
22. 土地情報	土地面積	16.00 m ²		24. 建物情報	総延床面積	16.80 m ²				
	現況地目	宅地			取得価額計(開始時簿価計)	7560千円 (—)				
	土地所有形態	所有			階数・構造(主たる建物)	地上1階・RC・鉄筋コンクリート				
	借受面積	0.00 m ²			建築年(主たる建物)	1998年				
23. 利用情報	(区分・単位)	平成29年度		平成28年度		法定点検(主たる建物)	未対象			
		人・食	前年比%	人・食	前年比%	建物所有状況	市有物件			
	利用者数	2,307	92.3	2,500	—	借受面積	0.00 m ²			
	開館日数	33	91.7	36	—	耐震対応(主たる建物)	対応済			
利用率	70	101.4	69	—	未利用スペース	0 m ²				
25. 収入	(区分・単位)	平成29年度		平成28年度		(区分・単位)	平成29年度		平成28年度	
		千円	前年度比%	千円	前年度比%		千円	前年度比%	千円	前年度比%
	市の収入計① (②+③)	0	—	0	—	市の支出計⑧ (指定管理料除く)	1,016	100.2	1,014	—
	使用料(減免後)②	0	—	0	—	施設のコスト	84	129.2	65	—
	その他③	0	—	0	—	事業のコスト	182	91.5	199	—
	《参考》 使用料減免額④	0	—	0	—	人に係るコスト	750	100.0	750	—
	指定管理者の収入計⑤	0	—	0	—	指定管理者の支出計⑨	0	—	0	—
	指定管理料⑥	0	—	0	—	施設のコスト	0	—	0	—
	利用料金収入	0	—	0	—	自主事業以外のコスト	0	—	0	—
	自主事業収入	0	—	0	—	自主事業のコスト	0	—	0	—
その他収入	0	—	0	—	人に係るコスト	0	—	0	—	
収入合計⑦	0	—	0	—	支出合計⑩	1,016	100.2	1,014	—	
27.使用料減免割合(%) (④÷(②+④))	—		—		28.工事請負費・修繕費	0		—		
29.施設経営における実質的な収入(⑦-⑥)	0		—		31. 市負担額⑪ (⑧-①+⑥)	1,016		100.2		
30.指定管理者の収支差引 (⑤-⑨)	0		—		市負担割合(%) (⑪÷⑩)	100		100.0		
32.施設所管課	土木課		33.施設主管課		土木課					

(2)施設評価シート

1.台帳番号	4580	3.利用用途別分類	スポーツ施設			
2.施設名	野島川河川プール(管理棟)	4.利用圏域別分類	地区			
5.基礎評価						
評価指標	A: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点以上 B: 品質:平均点未満、供給・財務:平均点以上 C: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点未満 D: 平均点未満、供給・財務:平均点未満					
	品質評価の評価(偏差値)					52.3
	供給評価・財務評価の評価(偏差値)					-
①品質評価	バリアフリー未対応(棟平均)の評価がかなり低い。	指標の結果	評価指標	平成29年度	偏差値	平均
			築年数(棟平均)	19.000 年	56.3	26.600 年
			劣化度点数(棟平均)	0.000 件	59.5	1.900 件
			耐震対応(棟平均)	5.000 点	54.9	4.700 点
			クレーム点数	5.000 点	56.6	4.300 点
			バリアフリー未対応(棟平均)	3.000 件	34.4	0.800 件
			評価値		52.3	
②供給評価		指標の結果	評価指標	平成29年度	偏差値	平均
			日あたり利用者数	70.000 人	-	人
			建物1㎡当たりの利用量率	4.161 人	-	人
			建物1㎡当たりの利用量率	台		台
			土地1㎡当たりの利用量率	人		人
			市負担額千円当たりの利用量	2.271	-	-
			評価値		-	
③財務評価		指標の結果	評価指標	平成29年度	偏差値	平均
			市負担割合	100.000 %	-	%
			市負担額(ソフト)前年度比	100.200 %	-	%
			建物1㎡当たりの市負担額	60.476 千円	-	千円
			土地1㎡当たりの市負担額	千円		千円
			利用量当たりの市負担額	0.440 千円	-	千円
			評価値		-	
品質評価の分布図						
	品質評価(横) / 供給・財務評価(縦)	供給評価・財務評価の分布図				

(2)施設評価シート

平成30年度施設評価			平成30年度
台帳番号	4580	利用用途別分類	スポーツ施設
施設名	野島川河川プール(管理棟)	利用圏域別分類	地区
1	基礎評価の分析(総括)	野島川河川プール管理棟は、平成10年に建築され築19年である。バリアフリー未対応の評価が低くなっているが、子ども達が自然と触れ合う場として整備しているため、バリアフリー対応の必要性は低い。	
2	品質評価分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	【評価指標】バリアフリー未対応(棟平均) 【原因】車椅子使用者が円滑に利用することができる便所がない。車椅子使用者用駐車施設がない。視覚障がい者のための誘導用床材等が設けられていない。	
3	供給評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	なし	
4	財務評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	なし	
5	定性的な要素の分析(総括)	市内の類似施設としては、宮崎県が整備した瓜田自然プール(高岡町)がある。	
6	半径1km以内にある近隣施設の有無。有の場合は施設名	宮崎市消防団青島分団第5部消防団車庫	
7	利用圏域内にある市の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	なし	
8	利用圏域内の県、民間の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	なし	
9	防災対策施設としての位置づけの有無。有の場合は内容	なし	
10	交通事情(幹線道路及び公共交通機関)の状況	当該施設は国道220号線沿線にあり、野島公民館前バス停から300mの所に位置している。バス停から一定の距離があり、交通事情は良好とは言えない。	
11	施設の所在地付近における現在人口及び将来人口の動向	【現在の人口】399,565人(平成29年10月1日現在 現住人口) 【将来の人口】353,770人(平成57年10月1日時点 国立社会保障・人口問題研究所推計値) 施設所在地から半径1km 【現在の人口】212人(平成22年10月1日現在 国勢調査より算出) 【将来の人口】141人(平成52年10月1日時点 国立社会保障・人口問題研究所推計値より算出)	
12	将来の修繕更新に係る見込み(建て替えの時期・事業費(概算))	【建て替えの時期】2040年代 【建て替えの事業費(概算)】600万円程度	
13	その他総合評価に勘案すべき事項(包括外部監査の結果・対応、他自治体との比較など)	なし	

(2)施設評価シート

平成30年度施設評価			平成30年度
台帳番号	4580	利用用途別分類	スポーツ施設
施設名	野島川河川プール(管理棟)	利用圏域別分類	地区
14	総合評価(案)(総括)	建物の評価(案)は「継続」とし、「総量の最適化」の取組として、建物は修繕更新費用を削減するために定期的に近接目視を行い、最小限の維持管理、修繕等を行なっていく。機能評価(案)は「継続」とし、今後も子ども達が自然と触れ合える場所としての機能を維持していく。	
15	建物の評価(案) ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続	
16	建物の評価(案)の理由	野島川河川プール管理棟は、建築後19年が経過しているが、基礎や外内壁等にひび割れ等もなく、施設としては良好な状態を保っている。このため、現在の建物は継続とし、今後3～5年程度は現状どおり適切な維持管理を行なっていく。	
17	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組(案) ※15が「処分」以外 のとき	平成29年度に外壁の塗装工事を実施したが、その際に行なった外壁の点検においてもひび割れ等もなく、施設としては良好な状態を保っている。今後も定期的(プール開設前の6月頃)に目視点検等を行ないながら、最小限の維持管理・修繕等を行なっていく。	
18	機能の評価(案) ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続	
19	機能の評価(案)の理由	内海地区における住民の憩いの場や子どもたちが自然と触れ合う場として機能していることや、開設期間である7月中旬から8月下旬の約1ヶ月間で約2,300人(平成29年度)が利用しており、施設としては有効に活用されていることから機能は継続とする。	
20	将来の市負担額(ソフト)を削除する具体的な取組み(案) ※18が「廃止」以外 のとき	①平成29年度に単独処理浄化槽から公設合併処理浄化槽に移行したことにより、浄化槽清掃や法定点検などの費用が削減された。 ②電話や上水道については、プールの開設期間のみの契約としており、最低限の使用としている。 ③地元の運営委員会に委託しているプール監視等業務委託は、宮崎市臨時職員の賃金(日額)を基にプール開設日を算出対象日としており、現時点で最も安価な積算による契約を行なっている。	
21	経営の方向性(案) ※「総量の最適化」と「質の向上」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	地域・地区の住民のスポーツ活動の拠点施設またはふれあいの場として適切な建物・設備の保全に取り組み長寿命化を進める。	
22	アンケート(市民)	【パブリックコメント】意見なし	
24	アンケート(施設利用者)	対象外	

(2) 施設評価シート

平成30年度施設評価			平成30年度
台帳番号	4580	利用用途別分類	スポーツ施設
施設名	野島川河川プール(管理棟)	利用圏域別分類	地区
26	総合評価(総括)	建物の評価は「継続」とし、「総量の最適化」の取組として、建物は修繕更新費用を削減するために定期的に近接目視を行い、最小限の維持管理、修繕等を行っていく。機能評価は「継続」とし、今後も子ども達が自然と触れ合える場所としての機能を維持していく。	
27	建物の評価 ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続	
28	建物の評価の理由	野島川河川プール管理棟は、建築後19年が経過しているが、基礎や外内壁等にひび割れ等もなく、施設としては良好な状態を保っている。このため、現在の建物は継続とし、今後3～5年程度は現状どおり適切な維持管理を行っていく。	
29	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組 ※27が「処分」以外るとき	平成29年度に外壁の塗装工事を実施したが、その際に行なった外壁の点検においてもひび割れ等もなく、施設としては良好な状態を保っている。今後も定期的(プール開設前の6月頃)に目視点検等を行ないながら、最小限の維持管理・修繕等を行っていく。	
30	機能の評価 ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続	
31	機能の評価の理由	内海地区における住民の憩いの場や子どもたちが自然と触れ合う場として機能していることや、開設期間である7月中旬から8月下旬の約1ヶ月間で約2,300人(平成29年度)が利用しており、施設としては有効に活用されていることから機能は継続とする。	
32	将来の市負担額(ソフト)を削除する具体的な取組 ※30が「廃止」以外るとき	①平成29年度に単独処理浄化槽から公設合併処理浄化槽に移行したことにより、浄化槽清掃や法定点検などの費用が削減された。 ②電話や上水道については、プールの開設期間のみの契約としており、最低限の使用としている。 ③地元の運営委員会に委託しているプール監視等業務委託は、宮崎市臨時職員の賃金(日額)を基にプール開設日を算出対象日としており、現時点で最も安価な積算による契約を行なっている。	
33	経営の方向性 ※「総量の最適化」と「質の向上」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	地域・地区の住民のスポーツ活動の拠点施設またはふれあいの場として適切な建物・設備の保全に取り組み長寿命化を進める。	

施設カルテ
(1)施設基本情報シート

平成30年度

1.台帳番号	2950	3.利用用途別分類	スポーツ施設		
2.施設名	宮崎市B&G田野海洋センター(プール)	4.利用圏域別分類	地域		
5.所在地(町名・番地)	田野町乙9541-2	15.設置根拠法令	スポーツ基本法		
6.バス停	田野駅前(570m)	16.設置条例	宮崎市B&G海洋センター条例		
7.開設年月日	昭和60年3月31日	17.市の計画	現状のまま当面は存続する		
8.施設運営形態(指定管理者)	指定管理者(たのたい共同企業体)	18. 外観	 		
9.指定管理期間	平成30年4月1日～令和05年3月31日				
10.用途地域	第一種住居地域		19. 内部	 	
11.財産区分	公共用				
12.施設概要 (設置の経緯や背景、施設の特徴や必要性など)	旧田野町に対し、公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団から、無償譲渡された施設であり、地元のスポーツ少年団や地域住民のスポーツ活動場所として利用されている。標高:136.1m				
13.主な利用者	地域住民スポーツ少年団	20.避難所の指定(標高)	— 0.00 m		
14.利用者駐車可能台数	0台	21.投票所の指定	無		
22. 土地情報	土地面積	732.28 m ²			
	現況地目	公園			
	土地所有形態				
	借受面積	0.00 m ²			
23. 利用情報	(区分・単位)	平成29年度		平成28年度	
		人・食	前年比%	人・食	前年比%
	利用者数	8,263	121.1	6,821	—
	開館日数	157	100.6	156	—
	利用率率	53	120.5	44	—
24. 建物情報	総延床面積	732.28 m ²			
	取得価額計(開始時簿価計)	— (—)			
	階数・構造(主たる建物)	地上1階・RC・鉄筋コンクリート			
	建築年(主たる建物)	1982年			
	法定点検(主たる建物)	未対象			
	建物所有状況	市有物件			
	借受面積	0.00 m ²			
	耐震対応(主たる建物)	対応済			
	未利用スペース	0 m ²			
	25. 収入	(区分・単位)	平成29年度		平成28年度
千円			前年度比%	千円	前年度比%
市の収入計① (②+③)		419	125.1	335	—
使用料(減免後)②		378	121.5	311	—
その他③		41	170.8	24	—
《参考》 使用料減免額④		0	—	0	—
指定管理者の収入計⑤		1,321	100.9	1,309	—
指定管理料⑥		1,321	100.9	1,309	—
利用料金収入		0	—	0	—
自主事業収入		0	—	0	—
その他収入	0	—	0	—	
収入合計⑦	1,740	105.8	1,644	—	
26. 支出	(区分・単位)	平成29年度		平成28年度	
		千円	前年度比%	千円	前年度比%
	市の支出計⑧ (指定管理料除く)	750	74.8	1,003	—
	施設のコスト	0	0.0	253	—
	事業のコスト	0	—	0	—
	人に係るコスト	750	100.0	750	—
	指定管理者の支出計⑨	2,706	160.1	1,690	—
	施設のコスト	1,169	135.8	861	—
	自主事業以外のコスト	0	—	0	—
	自主事業のコスト	0	—	0	—
人に係るコスト	1,537	185.4	829	—	
支出合計⑩	3,456	128.3	2,693	—	
27.使用料減免割合(%) (④÷(②+④))	0	—	0	—	
28.工事請負費・修繕費	0	0.0	76	—	
29.施設経営における実質的な収入(⑦-⑥)	419	125.1	335	—	
30.指定管理者の収支差引 (⑤-⑨)	△ 1,385	363.5	△ 381	—	
31. 市負担	市負担額⑪ (⑧-①+⑥)	1,652	83.6	1,977	—
	市負担割合(%) (⑪÷⑩)	48	65.1	73	—
32.施設所管課	スポーツランド推進課	33.施設主管課	スポーツランド推進課		

(2)施設評価シート

1.台帳番号	2950	3.利用用途別分類	スポーツ施設			
2.施設名	宮崎市B&G田野海洋センター(プール)	4.利用圏域別分類	地域			
5.基礎評価						
評価指標	A: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点以上 B: 品質:平均点未満、供給・財務:平均点以上 C: 品質:平均点以上、供給・財務:平均点未満 D: 平均点未満、供給・財務:平均点未満					
	品質評価の評価(偏差値)					38.8
	供給評価・財務評価の評価(偏差値)					-
①品質評価	①品質評価 築年数(棟平均)の評価が低い。 劣化度数(棟平均)の評価がきわめて低い。 バリアフリー未対応(棟平均)の評価がきわめて低い。	指標の結果	評価指標	平成29年度	偏差値	平均
			築年数(棟平均)	35.000 年	43.0	26.600 年
			劣化度数(棟平均)	8.000 件	19.5	1.900 件
			耐震対応(棟平均)	5.000 点	54.9	4.700 点
			クレーム点数	5.000 点	56.6	4.300 点
			バリアフリー未対応(棟平均)	5.000 件	20.2	0.800 件
			評価値		38.8	
②供給評価		指標の結果	評価指標	平成29年度	偏差値	平均
			日あたり利用者数	53.000 人	-	人
			建物1㎡当たりの利用量率	0.072 人	-	人
			建物1㎡当たりの利用量率	台		台
			土地1㎡当たりの利用量率	人		人
			市負担額千円当たりの利用量	5.002	-	-
			評価値		-	
③財務評価		指標の結果	評価指標	平成29年度	偏差値	平均
			市負担割合	47.800 %	-	%
			市負担額(ソフト)前年度比	86.900 %	-	%
			建物1㎡当たりの市負担額	2.256 千円	-	千円
			土地1㎡当たりの市負担額	千円		千円
			利用量当たりの市負担額	0.200 千円	-	千円
			評価値		-	
品質評価の分布図						
	供給評価・財務評価の分布図					
品質評価(横) / 供給・財務評価(縦)		供給評価(横) / 財務評価(縦)				

(2) 施設評価シート

平成30年度施設評価			平成30年度
台帳番号	2950	利用用途別分類	スポーツ施設
施設名	宮崎市B&G田野海洋センター(プール)	利用圏域別分類	地域
1	基礎評価の分析(総括)	施設建設から33年以上経過しており老朽化が進んでいるため、随時修繕工事等を行っている。	
2	品質評価分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	【評価指標】築年数、劣化度数【原因】施設建設後33年経過しており、老朽化が進んでおり、改修箇所が増えている 【評価指標】バリアフリー未対応【原因】入り口が階段のみで、スロープが未設置である	
3	供給評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	なし	
4	財務評価の分析 ※平均点未満の評価指標、平均点未満の原因等	なし	
5	定性的な要素の分析(総括)	田野町域における唯一のプール施設として、利用者にとって利便性が高い	
6	半径1km以内にある近隣施設の有無。有の場合は施設名	田野伝承芸能館、光団地、田野体育館、田野北地区公民館、下屋敷地区コミュニティ消防センター(第12部)消防団車庫、田野町文化会館、第2部消防倉庫消防団車庫、田野総合支所、田野駅自転車駐車場、木材町団地、田野小学校、田野総合福祉館ふれあいセンター、田野町児童センター、旧田野学校給食センター、田野中学校、B&G海洋センター(体育館)、田野運動公園外2箇所	
7	利用圏域内にある市の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	田野体育館、田野運動公園、宮崎市B&G海洋センター(体育館)、田野南農村運動広場、ニツ山農村運動広場	
8	利用圏域内の県、民間の類似(利用用途別分類が同じ)施設の有無。有の場合は施設名	なし	
9	防災対策施設としての位置づけの有無。有の場合は内容	なし	
10	交通事情(幹線道路及び公共交通機関)の状況	宮崎市街地から車で約30分、国道269号線から県道336号線へ進み、田野運動公園内にあり、交通事情は良い	
11	施設の所在地付近における現在人口及び将来人口の動向	宮崎市全体 【現在の人口】399,565人(平成29年10月1日現在 現住人口) 【将来の人口】353,770人(平成57年10月1日時点 国立社会保障・人口問題研究所推計値) 地域自治区(田野) 【現在の人口】11,183人(平成29年10月1日現在 住基人口による算出)	
12	将来の修繕更新に係る見込み(建て替えの時期・事業費(概算))	【建て替えの時期】2030年代 【建て替えの事業費(概算)】1.9億円程度	
13	その他総合評価に勘案すべき事項(包括外部監査の結果・対応、他自治体との比較など)	本施設はB&G財団との契約により、施設の無償譲渡契約を締結している。契約解消する条件として、施設は解体し更地にする 것과規定されている	

(2)施設評価シート

平成30年度施設評価			平成30年度
台帳番号	2950	利用用途別分類	スポーツ施設
施設名	宮崎市B&G田野海洋センター(プール)	利用圏域別分類	地域
14	総合評価(案)(総括)	建物の評価の(案)は「継続」、機能の評価(案)は「継続」とする。「総量の最適化」の取り組みとして、施設の修繕更新費用を削減するため、必要な修繕を必要な時期に行う。「質の向上」の取り組みとしては、利用者数を増加させるため、市内全域を対象とした自主事業の開催を検討する	
15	建物の評価(案) ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続	
16	建物の評価(案)の理由	施設建設後33年を経過し、老朽化のため修繕工事に対する年間維持管理が増大している。施設の廃止については、B&Gとの無償譲渡契約により課題があるため、維持管理の経費削減に努めながら、今後も施設の長寿命化に取り組んでいく。	
17	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組(案) ※15が「処分」以外 のとき	指定管理者と連携し、施設の状態把握に努め、適切な時期に必要な修繕を行う。	
18	機能の評価(案) ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続	
19	機能の評価(案)の理由	田野町域のプール施設として固定的な利用が継続している。利用者の増加のため、施設の整備に努めるとともに、事業等の開催により認知度を高め、市内全域からの利用者の増加を図る。	
20	将来の市負担額(ソフト)を削除する具体的な取組(案) ※18が「廃止」以外 のとき	指定管理者と連携し、利用率の増加に向けた取り組みを行い、使用料収入の増額を図る。	
21	経営の方向性(案) ※「総量の最適化」と「質の向上」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	地域・地区の住民のスポーツ活動の拠点施設またはふれあいの場として適切な建物・設備の保全に取り組む長寿命化を進める。「宮崎市B&G田野海洋センター(プール)」については、使用料の適正化に取り組む。	
22	アンケート(市民)	【パブリックコメント】意見なし	
24	アンケート(施設利用者)	対象外	

(2)施設評価シート

平成30年度施設評価			平成30年度
台帳番号	2950	利用用途別分類	スポーツ施設
施設名	宮崎市B&G田野海洋センター(プール)	利用圏域別分類	地域
26	総合評価(総括)	建物の評価のは「継続」、機能の評価は「継続」とする。 「総量の最適化」の取り組みとして、施設の修繕更新費用を削減するため、必要な修繕を必要な時期に行う。 「質の向上」の取り組みとしては、利用者数を増加させるため、市内全域を対象とした自主事業の開催を検討する	
27	建物の評価 ※継続、改修・更新、処分(廃止、売却・譲渡、貸付)から選択	継続	
28	建物の評価の理由	施設建設後33年を経過し、老朽化のため修繕工事に対する年間維持管理が増大している。施設の廃止については、B&Gとの無償譲渡契約により課題があるため、維持管理の経費削減に努めながら、今後も施設の長寿命化に取り組んでいく。	
29	将来の修繕更新費用を削減する具体的な取組 ※27が「処分」以外のとき	指定管理者と連携し、施設の状態把握に努め、適切な時期に必要な修繕を行う。	
30	機能の評価 ※継続、改善、統合・集約、変更、移転、廃止から選択	継続	
31	機能の評価の理由	田野町域のプール施設として固定的な利用が継続している。利用者の増加のため、施設の整備に努めるとともに、事業等の開催により認知度を高め、市内全域からの利用者の増加を図る。	
32	将来の市負担額(ソフト)を削除する具体的な取組 ※30が「廃止」以外のとき	指定管理者と連携し、利用率の増加に向けた取り組みを行い、使用料収入の増額を図る。	
33	経営の方向性 ※「総量の最適化」と「質の向上」を踏まえた利用用途別分類の経営の方向性	地域・地区の住民のスポーツ活動の拠点施設またはふれあいの場として適切な建物・設備の保全に取り組み長寿命化を進める。 「宮崎市B&G田野海洋センター(プール)」については、使用料の適正化に取り組む。	